

ツリガチ!

茨城県日立沖の 一つテンヤマダイ

撮影/文◎本誌編集部

★当日は小ダイが中心の中、1キロ級のマダイをキャッチ



▲500~800グラム級を2連発
◀マダイやゲストを含めてアタリは多い



◀当日のマダイのアベレージは500グラム前後



▲ヨッシーの得意な一つテンヤで日立沖のマダイを狙う



▲小ダイの取り込みは抜き上げる
◀エサは冷凍エビ。エサ付けは1匹掛けが基本

エサ釣りとルアー釣り、その両方の要素を持っているのが一つテンヤ最大の魅力かもしれないなあ



▲浅場なのでこのサイズでもよく引く



▲遊動テンヤのリフト&フォールで400グラム
◀マダイは小さいがアタリは明確に出る



★合わせが決まり、マダイが鋭い突っ込みをみせる



▲当日の主な釣り場は日立沖の10メートル前後
▶海底が見えるような浅場にもマダイはいる



たまん
ないねえ

Profile ◆よしおか すずむ
1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフショールアールを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガーインストラクター。

▼アタリを見逃さないよう竿先を注視する

テンヤを食われ
ないように、
逃がして
るんだよ

ヨッシーこと吉岡進がエサ、ルアー釣りを問わず、様々な釣り物にガチでチャレンジしていく当連載。第16回はヨッシーが得意とする一つテンヤマダイ。浅場で数が釣れている茨城県日立エリアへ釣行した。

釣り場は日立沖の水深10〜20メートル前後で状況により10メートル以内の浅場も狙う。釣れるマダイは500〜800グラム前後を主体に1キロ級がコンスタントに顔を出し、好日には2〜4キロ級も交じるという。ゲストも多彩でヒラメやカサゴ、メバル、マズイ、ムラソイ、アイナメなどが釣れている。



◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします!

一つテンヤタックル



▲タックルの使い分けはテンヤを投げて広く探るときはスピニング、船下を狙うときはベイト



▲テンヤは3〜5号。固定と遊動の両方そろえておく。上が固定タイプの「ピンビンテンヤ鯛夢」、下が遊動タイプの「TGピンビンテンヤ鯛夢 遊動」



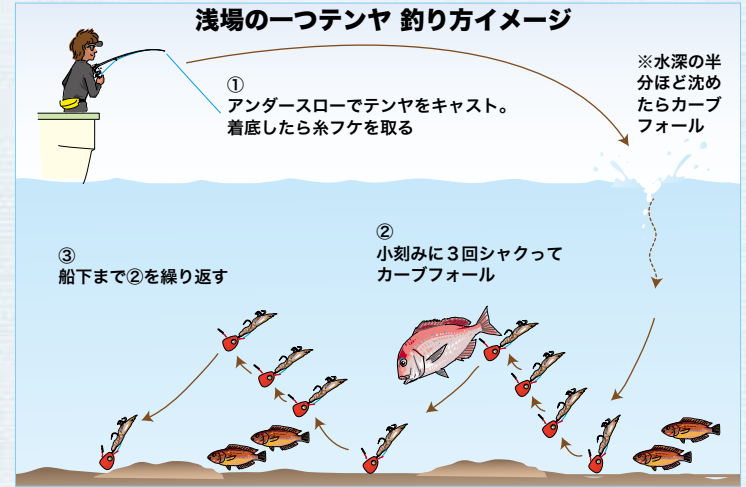
多彩なゲスト釣れる日立沖 当日は船中10目ゲット!
 ★一つテンヤでは豊富なゲストが釣れるのも魅力の一つ。当日はとにかくアタリが多く、根魚を中心に10目を数えた。

一つテンヤの釣り方イメージ

●当日、主に狙ったポイントは水深10メートル以内で、潮は緩く、風もないので船はあまり流れていない状況。そんなときは横に探る釣りが有効。キャストして着底させたらエサ取りから逃げるため素早く小さく3回シャクリながらリフトし、カーブフォール。これを船下まで繰り返す。



●スピニングタックルを使い、アンダーハンドキャストで広く探る



#船宿インフォメーション

茨城県 日立会瀬港 **ことぶき丸**
 ☎0294・23・2338
 (詳細は巻末の情報欄参照)
 ●料金=一つテンヤマダイ乗合一人1万1000円(エサ、氷、昼食付き)
 ●備考=4時半集合、5時出船
 ▼齋藤 研二船長(左)



▲12名限定で日立沖の釣りが楽しめる
 ▶帰港後に昼食のサービスがある。この日のメニューはカツ丼とカレーライス



★強い引きに大ヒラメを予感するものの、上がってきたのはカサザメ



◀45グラムのタイラバをキャストして斜めに引いてきて食べた。ことぶき丸ではタイラバやタイジギングも楽しむことができる



▲ポイントが浅いため、マダイは浮上してからも元気いっぱい

▶水深10メートル以内の浅場では3号テンヤのカーブフォールが有効だった

8月中旬に釣行したのは周年マダイを狙って出船している茨城県日立会瀬港のことぶき丸。船長が向かった釣り場は港前の水深10メートル前後、潮が澄んでいて海底がよく見える。

当日は潮が緩く風もほとんどないため、エンジン流しで根周りに着くマダイを狙っていく。

3〜5号の軽いテンヤをアンダーハンドでキャストして、底付近を探るとマダイやゲストも含めてアタリが多い。スピニングタックルを手には細かなロッドアクションを入れてエサ取りをかわして本命を釣り上げるヨッシィ。詳しくは62ページから始まる本編にて!